

高校の体育教師のイメージについて

高根 結梨奈 (鹿児島大学)

1. 目的

本研究は、大学生を対象に高校時代の体育教師の人間性や性格、指導方法に関する視点から高校の体育教師のイメージを捉え、学習者の性別、体育授業の好意度、体育教師の好意度、運動の得意度といった個人的特性と高校の体育教師のイメージとの関連性について検討することを目的とした。

2. 研究方法

- 1) 対象者は、本大学の共通教育科目の体育・健康理論の授業を受講している1年生の201名とした。
- 2) 調査時期は、令和元年7月下旬に共通教育科目の授業終了後に実施した。
- 3) 調査方法は、体育教師のイメージについて実態を把握するために質問紙調査を行った。項目は、中井ら(1996)が用いた調査項目(11因子)及び独自に作成した調査票を用いて実施した。
- 4) 分析方法は、t検定、一元配置分散分析、Pearsonの積率相関係数を用いた。なお、一元配置分散分析で有意差が認められた場合はTukey HSD法を用いて多重比較を行った。

3. 結果と考察

1) 体育教師のイメージ

10因子において、中井ら(1996)とほぼ同様の値を示した一方で、「慕われる人」因子においては中井ら(1996)よりも高い値を示した。この結果から、高校の体育教師のイメージは「心身ともに強く、専門的な能力や社会的教養を兼ね備え、信頼できる人。授業においては楽しさや仲間との関係を大切にし、計画的で熱心に指導する人。しかし、生徒指導面から怖い存在でもある。」と捉えることができる。したがって、高校の

体育教師は否定的なイメージよりも肯定的なイメージで捉えられていることが明らかになった。

2) 体育教師のイメージの男女差

女子学生の方が体育教師の知識、能力、指導、授業に関わる因子において肯定的に捉えていることが明らかになった。これは、女子学生は運動やスポーツが優れている体育教師をスポーツマンとして捉えており、授業に対して仲間との関わりを重視する傾向があること、男子学生は比較的体育教師には男性が多いことから、同性として厳しい目で見えており、高度の専門的な力量を求めていることが考えられる。

3) 運動の得意度と高校の体育教師のイメージ及び授業の好意度との関連性

運動の得意度と高校の体育教師のイメージとの関連性において、すべての因子において有意差は認められなかった。しかし、運動の得意度と高校の体育の授業の好意度は強い正の相関が認められた。この結果から、運動が得意な生徒は、運動能力が高いため運動学習が中心となる体育の授業に対して好意的であるが、運動が不得意な生徒は、苦手な運動を行う体育の授業に対して否定的であるということが考えられる。

4. 結論

本研究により、大学生の高校体育教師に対するイメージを捉えることができた。また、体育の授業における好意度と運動の得意度は強い相関関係が認められた。

5. 主な参考文献

- 1) 中井隆司・高橋健夫・岡沢祥訓(1996) 体育教師のイメージに関する研究, スポーツ教育学研究, 16巻, 125-135.